

## 忘年山行“日光沢温泉”報告（平成30年12月08日～09日）

今年の忘年山行は比較的早い時期から検討され、「日光沢温泉」に決定した。リーダーは提案者の小澤さんに決まった。喜ばしいことに半年振りに伊藤さんが復帰されて、総勢9名が参加することになった。「日光沢温泉」は奥鬼怒温泉郷：4湯の内の1湯で、鬼怒川温泉駅からバスで2時間弱山奥に入り、そこから約2時間歩くという“秘境”の温泉一軒家である。

東武鬼怒川線の特急列車8時丁度浅草駅発「きぬ107号」に乗車する。浅草駅には7名の方が少し早い7時30分頃には集り、あと2名の方は途中から乗車されて、鬼怒川温泉駅には全員集合した。東京では雲が多かったが、段々青空が見えてきて、下今市駅を過ぎると完全な青空になった。

定刻9時59分に鬼怒川温泉駅に到着、駅前で小形の日光市営バスが一番端の乗り場に待っていた。9名様、順次ご乗車。既に数名乗っており、その後高年女性のみ8名グループが来て、ほぼ満席で補助席も使用する状態になった。バスの運転手さんがそれぞれの人の帰りのバス時刻を訊いている。明日の帰りの車の手配のためだ。運転者さんが乗った人の数を数えると23名、ところが申告された人数は22名で合わない。2～3回数えたが結局答えは、高年女性グループで男性リーダーが自分を含めていなかったと判明した。やれやれ。ところで、外にはまだ10名ちかくの人が待っている。それで運転手さんは増車の手配をした。

バスは定刻10時15分発車後、川治温泉まで野岩鉄道沿いに走り、五十里ダムから県道23号線で西へ向きを変えて鬼怒川沿いに上って行く。中間地点の栗山村で10分と休憩を取り、更に黒部ダム、川俣ダムなどを通って行く。途中には栗山温泉、開運の湯、家康の湯、川俣温泉、平家平温泉、女夫瀧温泉 など温泉が多い。また、蛇王の瀧、間欠泉（Geyser）など興味深いものもある。

12時に女夫瀧バス停に到着した。ここで昼食を摂って12時40分に出発する。「奥鬼怒遊歩道」は鬼怒川の左岸を上って行くのであるが、バス停を出て直ぐの地点で2ヶ所崩落等（2006～2007年のことらしい）があり通行不能になった。女夫瀧橋を渡った所から、急な鉄製階段とZigzagの土階段で一気に50～60m登らねばならない。登ったら今度は直ぐ対岸に渡るために川面まで下るのである。立派な「鬼怒の中將 乙姫橋」が架かっている。橋を渡って少し登ると本来の道に合流した。

途中、小学低学年の女の子、その弟、2～3歳の女の子を連れた夫婦達、男性リーダー（名札を首から下げていたのでプロのガイドらしい）率いる8名の高年女性軍団と、追いついたり抜かれたり歩いて行く。女性軍はバスの中で「手白沢温泉」に行くと言っていた。「手白沢温泉」は収容人数が少なく、予約を取りにくいのだが、料理がうまいのだそうだ。

道は鬼怒川の左岸をたどるが、谷がかなり深く左岸の崖にはいたるところに“落石注意”の標識がある。また右岸はあちこち崩れて裸になり、少しの雨でもまた崩落がおきそうである。少し行くと兩岸の崖が迫って来ていて、道は川に対して斜めで直角に架かった「二つ岩橋」と「砥の岩橋」を渡って一度右岸に行き、すぐ左岸に戻ってきた。増水時の水と流木からの被害を避けるために、橋は高く

持ち上げて架けてある。今度は支流の「コザ池沢」の橋を渡って進む。

小さな上り下りを繰り返しながら、14時半頃「八丁の湯」に到着した。ここで右岸に渡る。はるか頭上にスーパー林道の立派な「奥鬼怒大橋」が望めた。一般車通行禁止のこの橋は林業のためだけに利用されるのだろうか、もったいない気がする。すぐ「加仁湯」に着き、この旅館の脇の道を登って、ほぼ15時に目的の「日光沢温泉」に到着した。玄関前に人懐こい茶色の柴犬（ネットに写真が出ていた）が出迎えてくれた。

旅館はかなり古い建物だ。風呂は単純泉だろうか、硫黄分は少なく、濁りはない。洗い場が少ないので困った。翌日は、「女夫淵」9時50分発のバスを逃すわけにいかないのだが、小澤リーダー達が小生の脚を心配して種々の対策案を検討し、小澤さんと小生のみ“おにぎり”を持って先行する案に決定した。しかし宿の人が朝食の時間を6時過ぎには準備してくれることになり、小生も朝食を摂れることになった。感謝。

入浴後、早速本年の総括、反省、来年の計画など“一大会議”を開いた。会議は16時過ぎから夕食をはさんで総計3時間位にわたって熱心に続けられた。主な議題はまず今年の総括で、山行が若干少なかったことが上げられた。会の主目的が明確に伝わるように、山歩きが中心であることを明確にして、年間計画でそれを伝えることにしたらよいとなった。この計画書は今年の積み残しと皆さんからの希望を基に、伊藤さんに纏めていただくことになった。

泊り山行は早く予定・日取りを決めておくために、次の案が（仮）決定した。夏山山行は、本格山行を「燕岳→常念岳の縦走」で8月下旬とし、軽い山行は7月下旬に「美ヶ原」とする。忘年山行は例年通り12月第2週（7日[土]、8日[日]）に「伊豆長岡：葛城山」とする。

さて寝る段になって、寒さ対策として四方から炬燵に足を入れて寝ることにしたが、部屋の窓など古いので建て付けが悪く隙間風が入ってくるし、布団は湿っぽいので、石油ストーブも付けたままにしたが、良く眠れなかった。

翌9日（日）、5時に起きてみると、雪が降っていて、既に積雪5cmを超えている。新雪なのでアイゼンは不要であろうが、帽子、ザックカバーなど濡れ対策をした。皆さんの7時出発に対して、小澤さんと小生は6時40分に、宿の人から「雪だから滑らないように」との注意を受けて出発する。

7時10分「八丁湯」、7時50分、二つの橋に着いた。途中河原の道が傷んでいるために、大きく上り下りになるバイパスがあったが、帰りはトラロープを跨いで河原の方へ直進した。岩ごろで道が少し崩れているところがあったが難なく通過、本道に戻ったが、はっきりした分岐は分からなかった。8時25分に「乙姫橋」に到着、急なジグザグ道を登って8時40分上部に到達、ここから車道の方へ出た。そして9時丁度に女夫淵のバス停に安着した。雪の下り道なので、滑って転ばないように注意しながら歩いたので、やはり予想より30分位余分に掛った。

まもなくバスが到着、昨日より大形バスだった。早速乗り込み座席を確保する。20分位後に後続の

人達が到着した。間もなく「加仁湯」と「八丁湯」からの小形バスが相次いで到着して、バスはほぼ満席になった。どうも歩いて下ってきたのは我々グループだけのようだった。

バスは定刻 9 時 50 分に発車、定刻 11 時 30 分の鬼怒川温泉駅前に着いた。目に入った駅前の 2 階の「レストラン 八家」に入った。結構混んでいる。皆さん、日光名物「湯波」の入った麺類などを食していた。少し中途半端になってしまったが、ここで“反省会”ということになった。

あまり長居もできず、当初予定より 1 時間早い 13 時 8 分の特急で帰ることにした。駅に行ってみるとあと 27 席あるという。皆さんが手配された予約方法が夫々異なり、変更手続きが複雑であった。券で持っていた人はすんなりいったが、ネット予約の人は大変だったらしい。それでも全員ばらばらの席を確保できた。従って、車内での流れ解散となった。

今回の忘年山行は、全て小澤さんの手配であったが、なかなか良い計画だったと思う。事前の防寒、防雪対策への注意など良くしていただいた。降雪が一日ずれていたらと思うと、ラッキーだった。宿は少し“ブルブル”だったがこれもご愛嬌だろう。宿での反省会もしっかりでき、来年に対する方針、計画も十分議論できたと考える。小澤さん及び参加の皆さんに感謝。来年も宜しくお願いします。

以上 陽田